



岡山市広報連絡資料

令和8年9月11日

「第49回岡山戦災の記録と写真展 ―描かれた惨禍 絵からたどる空襲体験―」を開催します

岡山空襲の状況を実物・写真・デジタル映像等で市民に伝え、戦争の悲惨さや平和への誓いを新たにするために、毎年、写真展を開催しています。例年、岡山空襲のあった6月29日に合わせて6～7月に開催していましたが、今年度はシルバーウィークを含む9～10月に開催します。

1 日 時

令和8年9月18日(金)～令和8年10月12日(月・祝)

〔休館日〕 9月24日(木)、9月28日(月)、10月5日(月)

〔開館時間〕 午前10時～午後6時 ※入館は午後5時30分まで

2 場 所

岡山シティミュージアム4階 企画展示室 5階 岡山空襲展示室(岡山市北区駅元町)

3 内 容

今回の写真展では、空襲体験者が描いた絵から彼らの記憶や心象をたどるとともに、空襲を実行したアメリカの軍事資料、公的機関や各家庭に残された記録等をひもといて、岡山空襲の実態と被害を詳しくご紹介します。

■会期中記念イベント

①アニメーション映画『火垂るの墓』上映会(ミニ解説付き)

〔日時〕 9月22日(火・祝) 午後1時30分～3時30分

②岡山空襲体験談を聞く会

〔話者〕 岡山空襲体験者 〔日時〕 9月27日(日) 午後1時30分～3時

③記念講演会 ※要申込

〔演題〕 戦争前の人と町、戦時中の人と町 〔講師〕 片渕須直さん(アニメーション映画監督)

〔日時〕 10月12日(月・祝) 午後1時30分～3時30分

4 その他

詳細は別紙にてご確認ください。

【問い合わせ先】

岡山市 福祉援護課 松本・佐藤 直通086-803-1218 内線5450・5454

第49回岡山戦災の記録と写真展 関連イベント情報



映画『この世界の片隅に』監督 片渕須直さんによる 特別講演会開催!!

演題「戦争前の人と町、戦時中の人と町」

片渕さんは、この世界の片隅にのように史実が大きく関係する作品を制作するとき、徹底的な時代考証を行い、細部にまでリアリティに満ちた世界を演出します。そうして表現された戦前と戦時中の人々のいとなみや、作品を通じて伝えたいことを中心にお話しいただく予定です。

日時 2026年10月12日(月・祝)
13時30分～15時30分
会場 岡山シティミュージアム4階講義室
定員 70名(要事前申込) ※申込多数の場合は抽選。



※メールかwebフォームにて、9月30日(水)まで受付。
メール: okayama_kushu@city.okayama.jp
(メールの件名を「10月12日講演会申込」とし、お名前と連絡先をお伝えください。)

講演会申込
webフォーム

(片渕須直さんプロフィール)
アニメーション映画監督。1960年、大坂府枚方市生まれ。
日本大学芸術学部映画学科在学中から「名探偵ホームズ」(1984年)に脚本家として参加、「魔女の宅急便」(1989年)で演出、TVシリーズ「名犬ラッシー」(1996年)で監督デビュー。
長編映画では「アリエス姫」(2001年)、「マイマイ新子と千年の魔法」(2009年)、「この世界の片隅に」(2016年)、「この世界の(さらにつづく)片隅に」(2019年)を監督。
『この世界の片隅に』で、日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞やアヌシー国際アニメーション映画祭長編部門審査員賞をはじめ、国内外で高い評価を得る。
現在、『枳菓子』をベースとした『つるばみ色のなご子たち』を制作中。

アニメーション映画『火垂るの墓』上映会

監督:高畑勲 原作:野坂昭如(新潮文庫版) 1988年公開
(展覧会担当学芸員によるミニ解説付き)

日時 2026年9月22日(火・祝)
13時30分～15時30分
場所 岡山シティミュージアム4階講義室
定員 70名(当日先着順)



火垂るの墓 ©野坂昭如/新潮社、1988年

学芸員による展示解説(申込不要)

日時 会期中の土曜日・日曜日(9月27日を除く)
14時から30分程度
※開始時間までに4階展示室入口にお集まりください。

・諸事情により会期や内容等が変更になることがあります。
最新情報は岡山シティミュージアムや岡山空襲展示室のHPにてご確認ください。
岡山シティミュージアム: <https://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/>
岡山空襲展示室: <https://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/0000022330.html>

岡山空襲体験談を聞く会

話者 岡山空襲体験者
聞き手 岡山空襲展示室学芸員

日時 2026年9月27日(日)
13時30分～15時
場所 岡山シティミュージアム4階講義室
定員 70名(当日先着順)

【お問い合わせ先】
岡山空襲展示室
TEL:086-253-7070
(展示・イベント内容については、
こちらにお問い合わせください。)

【会場のご案内】
岡山シティミュージアム
岡山市北区駅元町15-1
TEL:086-898-3000
JR 岡山駅西口向かい
(東西連絡通路で直結)



岡山シティミュージアム
公式X



岡山シティミュージアム
公式HP



岡山空襲展示室
公式HP

第49回岡山戦災の記録と写真展 —描かれた惨禍 絵からたどる空襲体験—



「西川沿いの焼け跡」青木正春作 1947年

2026年 **9月18日(金)～10月12日(月・祝)**

会場: 岡山シティミュージアム4階企画展示室 5階岡山空襲展示室

開館: 10時～18時 ※入館は17時30分まで

休館日: 9月24日(木)、9月28日(月)、10月5日(月)

主催 岡山市 共催 岡山市教育委員会 後援 岡山県教育委員会

展示協力 岡山市立中央図書館 株式会社新潮社

入場
無料

EXHIBITION
ROOM OF
THE
OKAYAMA
AIR RAIDS
岡山空襲展示室

空襲の惨禍に何を思い、何を描いたのか

アジア・太平洋戦争のさなかの1945年(昭和20)3月以降、アメリカ軍は日本の各都市に対して激しい空襲を実行するようになります。その結果、日本が降伏する8月までに、広島と長崎への原爆投下も含めて全国で66の都市が大きな被害を受けました。

岡山のまちも1945年(昭和20)6月29日に空襲を受け、アメリカ軍の爆撃機B-29によって約890トンの焼夷弾が投下されました。この空襲で、当時の市街地の63%が焼け野原となり、多くの人々が傷つき亡くなりました。

岡山空襲に関しては多くの資料や証言が残されています。そのなかには、空襲体験者が空襲の惨禍を描いた絵もあります。彼らが筆をとったのは、カメラがない代わりに記録を残す手段として、あるいは時間が経つなかですれゆく記憶を形に残すためなど、事情はさまざまだったでしょう。しかし、そこに共通するのは、自分の見た光景や体験を後世に伝えたいという強い思いです。

今回の展覧会では、空襲体験者が描いた絵から彼らの記憶や心象をたどるとともに、空襲を実行したアメリカの軍事資料、公的機関や各家庭に残された記録などをひもといて、岡山空襲の実態と被害を詳しくご紹介します。

この展覧会をとおして、戦争の悲惨さと平和の尊さについて改めて思いを深めていただければ幸いです

岡山空襲について

1944年から1945年にかけて、日本全土の市街地を対象とした大規模な空襲がアメリカ軍によって行われました。岡山市の場合は1945年6月29日に大規模な空襲を受け、当時の市街地の63%を焼失し、少なくとも1737人の死者が出ました(※2000人をこえるという説もあります)。

空襲を知る——日本本土空襲と岡山空襲



空襲を受ける岡山市街地 1945年6月29日
原資料：アメリカ国立公文書館所蔵 工藤洋三 提供

アメリカ軍が日本本土空襲の実行に至った経緯、岡山への空襲がどのように計画され実行されたのか、そしてどれだけの被害が岡山のまちに生じたのかを、岡山空襲展示室が所蔵する実物資料や写真を中心にをご紹介します。



岡山空襲で投下されたM47 焼夷弾とM74 焼夷弾

高畑勲と岡山空襲、そして『火垂るの墓』



晩年の高畑勲 寺越陽子撮影・提供 2016年

アニメーション監督の高畑勲(1935～2018年)もまた岡山空襲の体験者でした。当時9歳で、焼夷弾が降るなかを11歳の姉とともに必死で逃げたといっています。この体験が、のちにアニメーション映画『火垂るの墓』(1988年)を手がける動機のひとつとなり、その作中の表現にも大いに活かされました。

空襲の体験者でありながらも、彼がその詳細を公の場で語ることは長らくありませんでした。しかし、2015年の岡山市主催の平和講演会に登壇し、多くの聴衆の前で、自ら「人生最大の出来事」と位置づける凄惨な体験を初めて詳しく語ったのです。

このときの講演会の貴重な記録映像をご覧いただくとともに、高畑勲が経験した空襲と『火垂るの墓』で描き出した空襲を解説する特別スペースを設けています

「あの口」を描く

空襲のさなかでまちが燃える様子を見ながら、あるいは当時を思い出しながら描かれた岡山空襲の絵からは、彼らが見た光景のすさまじさをうかがい知ることができます。



「無題」 金谷哲郎 作 1945年
岡山操車場付近に投下された大型焼夷弾の様子を、北区万成から見て描いたもの。



「記憶の中の空襲1」 窪田裕一 作 2019年

焼け跡を描く

空襲により、岡山のまちの中心部のほとんどが焼け野原となりました。残された絵と記録写真とを比較しながら、空襲の被害についてご紹介します。



素描「専売局の焼跡を望ム 昭和二十一年二月五日」
中田政夫 作 1946年



岡山地方専売局の焼け跡 片山栄一撮影 1947年

復興を描く

終戦後、進駐軍による占領統治が始まり、社会制度や人々の生活は戦時中から大きく変わっていきます。それと並行して焼け跡の復興も進み、岡山のまちは徐々に活気を取り戻していきました。

その光景を多くの画家たちが描き残しています。なかでも、岡山市の復興計画の初案にも関わった建築家・佐藤重夫が描いた屏風は庁舎です。



素描「備前焼見物」佐藤一章 作 1945年
岡山市立中央図書館所蔵・画像データ提供



素描「ソバは賣る 柳川村近」佐藤一章 作
岡山市立中央図書館所蔵・画像データ提供



「戦災復興岡山市の図」屏風(右隻) 佐藤重夫 作 1947年 岡山市立中央図書館所蔵・画像データ提供